

調査の概要

1 調査の目的

大阪府民の栄養摂取状況および生活習慣等の実態を把握し、課題を明らかにするとともに、健康寿命の延伸に有効な健康・栄養施策の展開につなげることを目的とした。

2 調査の対象

【成人調査】

成人調査の対象者は、平成 27 年国民生活基礎調査で設定された府内 85 地区から無作為抽出した 50 地区（88 単位区）の内、該当世帯の 18 歳以上（平成 27 年 11 月 1 日現在の年齢）の世帯員とした。

以下の世帯及び世帯員は調査の対象から除外した。

<世帯>

- ・世帯主が外国人である世帯
- ・国民生活基礎調査への協力が得られなかった世帯

<世帯員>

- ・在宅患者で疾病などの理由により流動状の食品や薬剤のみを摂取している場合など通常の食事をしていない人
- ・調査期間を通じて調査対象世帯に在住していない人
例) ・旅行や出張などで自宅を離れている人 ・単身赴任している人
・遊学している人 ・病院等に入院している人
・介護老人保健施設、指定介護療養型医療施設、社会福祉施設等に入所している人

【高校生調査】

高校生調査の対象者は、府域 4 ブロックから府立高等学校各 1 校、計 4 校に在学中の生徒とした。

3 調査項目及び実施時期

(1) 調査項目

【成人調査】

- ①「平成 27 年度 大阪版健康・栄養調査アンケート」による調査
朝食摂取状況、健康的な生活習慣の実践、共食の状況、食べ方への関心 等
- ②簡易型自記式食事歴法質問票（brief-type self-administered diet history questionnaire: BDHQ）による調査
調査日前およそ 1 ヶ月間の食生活の栄養素等摂取量、食品群別摂取量等

【高校生調査】

- ・「平成 27 年度 大阪版健康・栄養調査（高校生）アンケート」による調査
朝食摂取状況、健康的な生活習慣の実践、共食の状況、食べ方への関心 等

(2)調査時期

【成人調査】 平成 27 年 11 月 1 日から 12 月 11 日

【高校生調査】 平成 28 年 2 月

4 調査方法

【成人調査】

- ・調査員が被調査世帯を訪問し、調査票を配布。後日再度訪問し、記入後の調査票を回収した。

【高校生調査】

- ・調査票を、被調査校へ郵送または手渡しし、後日郵送または手渡しにて回収した。

5 調査実施率

【成人調査】

対象世帯数 1,564 世帯

回答世帯数 958 世帯 (回収率 61.3%)

回答者数 1,858 人 (食生活・生活習慣に関するアンケート)

1,851 人 (BDHQ)

調査票の回収数及び実施率

	対象世帯数	実施世帯数	実施率 (%)	BDHQ 回収数	アンケート回収数
政令市・中核市を除く大阪府	679	473	69.7	960	962
大阪市	394	163	41.4	273	275
堺市	149	94	63.1	183	184
豊中市	59	36	61.0	67	67
高槻市	88	73	83.0	155	155
枚方市	80	55	68.8	93	96
東大阪市	115	64	55.7	120	119
総数	1,564	958	61.3	1,851	1,858

【高校生調査】

対象 府立高等学校 4 校

回答者数 4 校 555 人

6 結果の集計及び集計客体

結果の集計は、大阪府立大学及び府健康づくり課で行った。集計客体数は、成人調査はアンケート、BDHQ のいずれも協力が得られ、BDHQ から算出したエネルギー摂取量中央値の $\pm 2.5SD$ 内の 1,810 人とした。高校生調査は集計不能な回答を除く 524 人とした。

性・年齢階級別 集計客体数（成人調査）

年齢階級	男性	女性	総数
10 歳代	9	19	28
20 歳代	67	74	141
30 歳代	101	106	207
40 歳代	141	154	295
50 歳代	102	132	234
60 歳代	177	231	408
70 歳代	165	185	350
80 歳以上	59	88	147
総数	821	989	1,810

性・学年別 集計客体数（高校生調査）

学年	男性	女性	総数
1 年	56	125	181
2 年	111	230	341
3 年	1	1	2
総数	168	356	524

7 本書利用上の留意点

(1) アンケート調査の結果について

- ・各設問の回答人数は、無回答を除いて集計した。
- ・掲載している数値は四捨五入のため、内訳合計が総数と合わないことがある。
- ・体格とのクロス集計では、BMI35.0以上の高度肥満4名を除いて集計した。

(2) 栄養素等摂取量及び食品群別摂取量について

- ・栄養素等摂取量及び食品群別摂取量の算出は、BDHQの結果を用いた。BDHQは大規模な栄養疫学研究や栄養が従である（他の要因が主である）研究に用いることを目的として開発され、大学・病院・診療所・自治体などが使用している。最近1ヶ月の食事を75項目回答し、栄養素等摂取量及び食品群別摂取量を算出するものである。専用の栄養価計算プログラムにより約30種類の栄養素と約50種類の食品の摂取量を算出できる。春夏秋冬の季節ごとに約3ヶ月おきに、非連続の4日間（平日3日、休日1日）の半秤量式食事記録法の結果との比較で、食品群別摂取量、栄養素摂取量いずれも成人については妥当性が確認されており、食事記録に相当する結果を得られる。
- ・調査結果を分析するにあたり、個人の算出結果の一部をアンケートによる調査とのクロス集計に活用した。
- ・算出結果は平均値及び標準偏差、中央値で示した。エネルギー摂取量の分布曲線が正規分布ではなく、少ない方向にやや偏った傾向がみられたことから、栄養素等摂取量及び食品群別

摂取量の代表値は中央値を用いた。

- ・食品群の分類は、BDHQの食品分類により算出した。なお、BDHQの食品分類は平成24年国民健康・栄養調査食品群別表に準じている。

<食品分類表>

食品群	BDHQ回答項目
穀類	めし
	パン
	そば
	うどん
	ラーメン
	パスタ類
いも類	いも
砂糖・甘味料類	砂糖
豆類	とうふ・油揚げ
	納豆
緑黄色野菜	漬物(緑葉色野菜)
	緑葉野菜
	にんじん・かぼちゃ
	トマト
	100%ジュース(摂取重量×0.225=緑黄色野菜)
その他の野菜	漬物(その他の野菜)
	レタス・キャベツなどの生野菜
	キャベツ
	だいこん・かぶ
	根菜
果実類	柑橘類
	かき・いちご
	その他の果物
	100%ジュース(摂取重量×0.775=果実類)
きのこ類	きのこ
藻類	海草
魚介類	いか・たこ・えび・貝
	骨ごと魚
	ツナ缶
	干物
	脂がのった魚
	脂が少ない魚
肉類	鶏肉
	豚肉・牛肉
	ハム
	レバー

食品群	BDHQ回答項目
卵類	たまご
乳類	低脂肪乳
	普通乳
	アイスクリーム
油脂類	油
菓子類	洋菓子
	和菓子
	せんべい
飲料類	緑茶
	紅茶・ウーロン茶
	コーヒー
	コーラ
嗜好飲料類	日本酒
	ビール
	焼酎
	ウイスキー
	ワイン
調味料・香辛料類	しょうゆ・ソース(食塩換算量)
	食塩
	マヨネーズ
	みそ汁×7.7/150
	めんスープ×1.5/100*
栄養価計算に含まない*	魚(いか・たこ・えび・貝を含む)を使った料理 さしみ・すし
	魚(いか・たこ・えび・貝を含む)を使った料理 焼き魚
	魚(いか・たこ・えび・貝を含む)を使った料理 煮魚・鍋物・汁物・みそ汁
	魚(いか・たこ・えび・貝を含む)を使った料理 天ぷら・揚げ魚
	肉(ハム・ソーセージ含む)を使った料理 焼肉・ステーキ・グリル
	肉(ハム・ソーセージ含む)を使った料理 ハンバーグ・カレー・ミートソースなどの洋風料理
	肉(ハム・ソーセージ含む)を使った料理 揚げ物・天ぷら
	肉(ハム・ソーセージ含む)を使った料理 炒め物
	肉(ハム・ソーセージ含む)を使った料理 和風の煮物・鍋物・どんぶり物・汁物・みそ汁
	柑橘類(季節)
	かき(季節)
	いちご(季節)

※ 食事歴法の考え方をういて、調理食塩・調理油・調理砂糖の摂取量を推定するために用いている。